

「琉球の美を探るⅠ」の結論

- 両極は等価値： 王朝の美と庶民文化
有形の美と無形の美
都市の美と農村の美
- 「チュクユン」・「チカユン」・「テナジュン」
伝統を壊しながらつくる・本物を見る目を育む



「琉球の美を探るⅡ」の結論

- 迷子の都市景観
 - 沖縄戦により焦土化したまち
 - 米軍占領下と復帰後の本土化
- 迷う都市デザインを導くために (生態学的な視点)
都市デザインを育てる環境
- ①過去と未来をテナジュン (風水・まちの両端空間)
 - ②組合せの価値観をさぐる (琉球スローデザイン運動)



「琉球の美を探るⅢ」の結論 (仮説その1)

- 1) 都市の骨格が都市デザインには不可欠である
 - 骨格は道路、区画割、緑地配置等から創られる
 - 建築のデザイン、他のディテールはその上で成り立つ (赤瓦、シーサー、石積み等のらしさを規定する素材も含む)

土地区画整理事業は風土・土地柄に関係なく均一な手法
現在の多くの都市計画は西洋型の都市設計思想でありその土地の環境特性、風土を無視したモノとなっている

- 2) 「風水」という都市構造のデザインコード、モジュールを解き明かし活用することで「美」の一端を再現できる (唐栄久米村、首里城とその周辺等の風水の分析と応用)

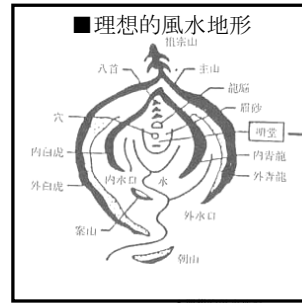
- 3) 都市構造のデザインへ計画的に「風水」という都市設計技法を導入する

- スピリチュアルなるモノ1 「御嶽信仰」や「ニライカナイ思想」
- スピリチュアルなるモノ2 「他国の支配に抵抗するアイデンティティの発揮」

- 4) リ・デザイン (修復作業) の試みが求められる
 - ①現那覇市久米一帯、那覇新都心等
 - ②今後、解放される大規模駐留米軍基地跡地の整備

①石工の話

- ・地場素材としての石
その特徴と使い分け
- ・集落と石、石積みの様式
- ・今帰仁城と今泊集落



②琉球風水研究家の話

- ・首里城と風水の関係
- ・陽尺：住居の建築寸法
陰尺：墓や仏壇の寸法
- ・風水は環境を科学的に見る手法のひとつ
- ・久米村と風水の関連性

③琉球の歴史研究家の話

- ＋文献A(高橋誠一著)
 - ＋文献B(那覇市史) 他
- ー久米村をモデルに近世琉球の時代の都市デザインを考える！ー
- ・薩摩支配下でのアイデンティティの確立
 - ・久米村はコンベンション City だった！
 - ・政治的文化的緩衝地帯としての機能
 - ・風水でデザインされた都市だった！



●1832年北斎が描いた琉球八景の久米村